

## W218a Nano-JASMINE と小型 JASMINE の進捗状況の全体的概要

郷田直輝, 小林行泰, 辻本拓司, 矢野太平, 白旗麻衣, 山口正輝, 宇都宮 真, 鹿島伸悟, 亀谷 収, 浅利一善 (国立天文台), 山田良透 (京大理), 原 拓白 (東大理), 吉岡 諭 (東京海洋大), 穂積俊輔 (滋賀大), 梅村雅之 (筑波大), 西 亮一 (新潟大), 浅田秀樹 (弘前大), 長島雅裕 (長崎大), 對木淳夫, 野田篤司, 歌島昌由 (SE 推進室/JAXA), 安田 進 (研究開発本部/JAXA), 石村康生, 坂井真一郎, 小川博之, 福田盛介 (宇宙研/JAXA), 中須賀真一 (東大工), 酒匂信匡 (キャノン電子), ほか JASMINE ワーキンググループ一同

Nano-JASMINE は、2010 年に FM の組み立ては完了しており、FM の維持管理、運用訓練の実施、および地上通信局やデータ解析の準備を進めている。打ち上げ時期は 2015 年後半が予定されているが、国際情勢にも左右されており、不定要因がある。Nano-JASMINE は、将来は Gaia と Nano-JASMINE の観測データを合わせたデータアーカイブも制作することとなっていて、Gaia のデータ解析チームとの従来からの協力だけではなく、アーカイブ作成と Gaia データの正当性の検証についても Gaia チームとの協力が開始した。一方、小型 JASMINE は、年周視差を  $10 \sim 20 \mu$  秒角の精度 (固有運動  $10 \sim 50 \mu$  秒角/年) で、主テーマである巨大ブラックホールとバルジの共進化の解明のため、中心核バルジ領域を測定するとともに、その他興味ある特定天体 (CygX-1、ガンマ線連星や系外惑星、褐色矮星、星形成領域等) 方向に対しても位置天文観測を行う計画である。JAXA 宇宙研による、イプシロン搭載宇宙科学ミッションへのミッション提案を行ったが、その審査で得た改善コメントに基づいてさらに検討を進めてきたが、改善の見込みがつつつつある。また、重要な技術要素である衛星の熱設計と望遠鏡構造の熱変動安定性の実証実験を精力的に進めている。以上の進捗状況の概要を報告する。